

3 武士の時代の始まるころ

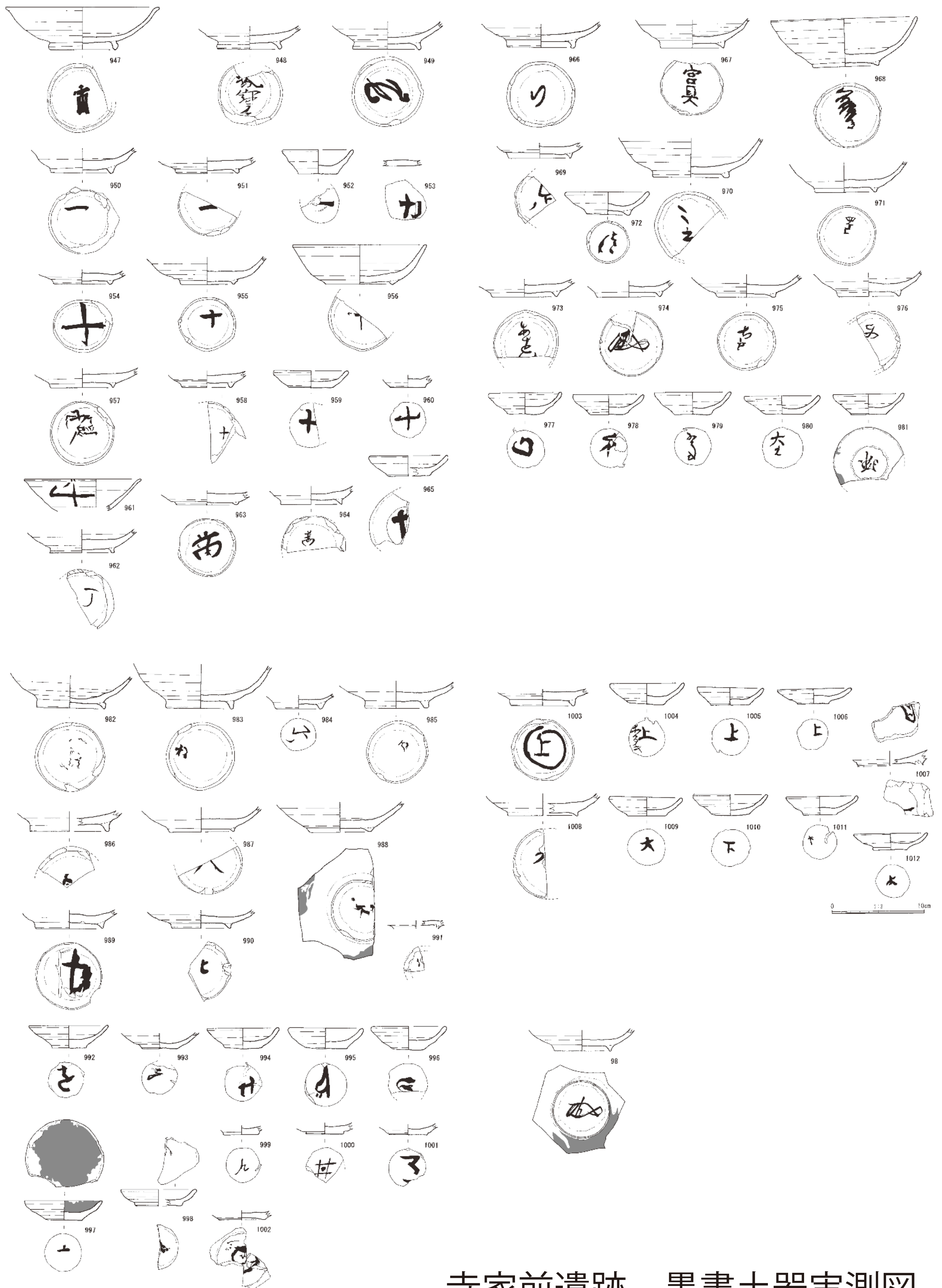
武士は戦闘を家業とする人々のことです。平安時代の終わりごろになると、それまで政治を支配していた貴族に代わり、武士が実権を持つようになり、そのトップは、明治時代になるまで支配階級として政権を担いました。

藤枝パーキング上り付近に位置する寺家前遺跡では、平安時代後期（11 世紀末）から始まる溝や柵列等で区画された屋敷地群が合計 3 箇所発見されています。

屋敷地群は、溝や柵で四角く二重に区画されており、内郭とした内側の区画内には、柱が太く規模が大きい建物が密集し、外郭と呼ぶ外側の区画には、柱が細く規模が小さい建物が散漫に配置されている状況が明らかになりました。外郭は約 2,500m²、内郭は約 600m² の規模で共通しています。

屋敷地群は平安時代後期～鎌倉時代中期（11 世紀末～13 世紀代）に最盛期であったようで、山茶碗をはじめとする土器が数多く出土しました。なかでも「花押」のある墨書土器は葉梨莊領主を表す可能性のあるものとして注目されます。

また、仮宿堤ノ坪遺跡でも、同じ時代の建物群や「花押」を書いたとみられる墨書土器が出土しています。仮宿地域の当時の領主に関わるものと考えられます。



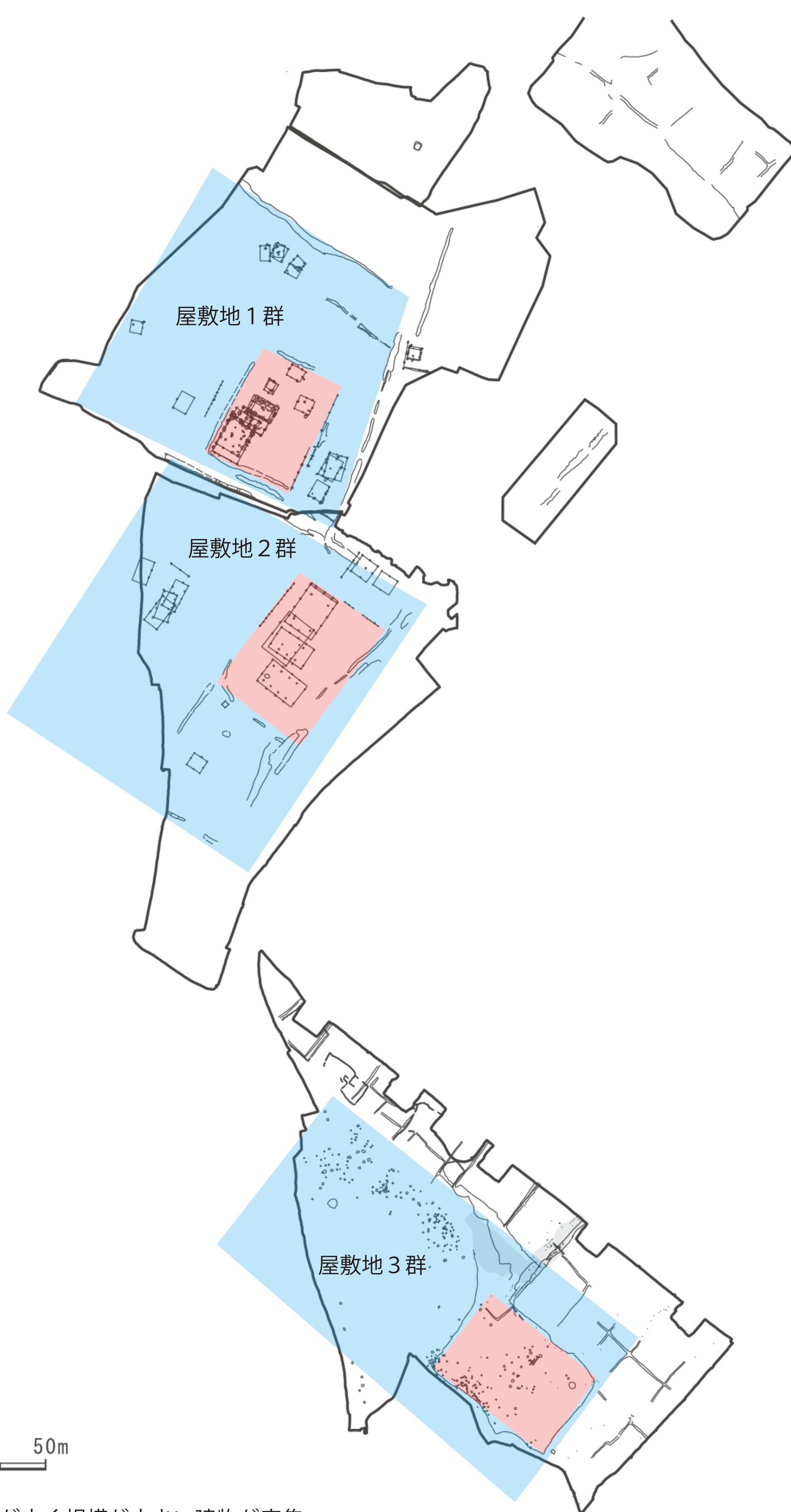
寺家前遺跡 墨書土器実測図



寺家前遺跡から東をのぞむ

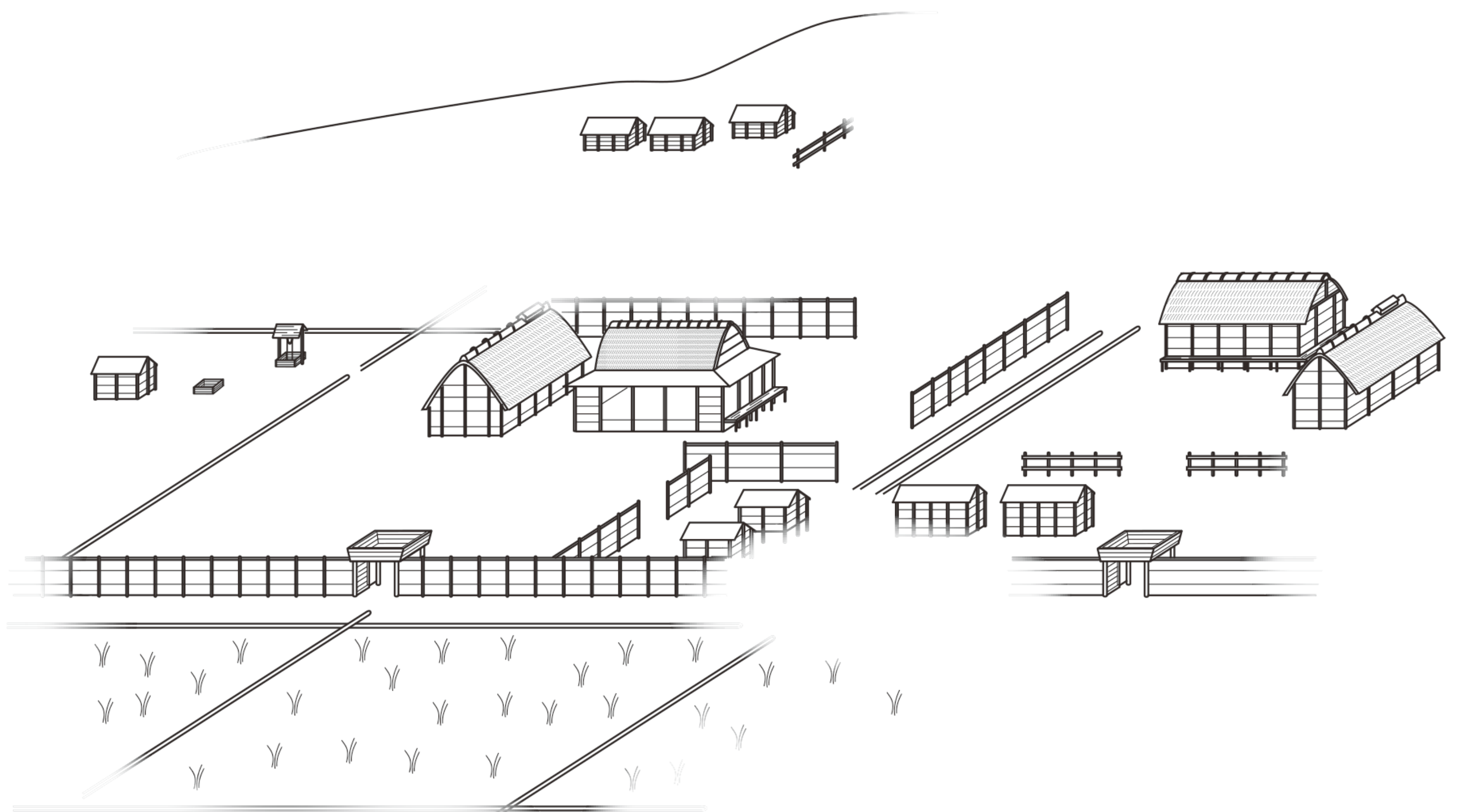


寺家前遺跡全景



- 内郭 柱が太く規模が大きい建物が密集
- 外郭 柱が細く規模が小さい建物が散漫

寺家前遺跡 平安時代後期～室町時代の屋敷地





寺家前遺跡 井戸



寺家前遺跡 草鞋



寺家前遺跡 扇

今川氏の駿河支配の出発点

屋敷地群は、鎌倉時代後期～室町時代（14 世紀以後）も規模は縮小しながら存続していたと想定されます。建武4年(1337)、足利尊氏が今川範国に恩賞として「葉梨荘」を与えて以降、従来の領主に代わって今川家の家臣がこの地を治めるようになったと考えられます。寺家前遺跡で発見された屋敷地群の衰退は、この事象と密接な関係があったと推測されます。

足利尊氏下文写 今川家古文章写

下す 今川五郎法師法名心省

早く領知せしむべし駿河国羽梨庄、遠江国河会郷、
ならびに八河郷の事右、人を持って勲功の賞として
宛行ふところなり。てへれば先例を守り、沙汰致す
べきの状件のごとし。

（足利尊氏）等持院殿

建武四年九月廿六日 御判

今川時代の藤枝

寺家前遺跡の周辺には「今川氏館」を筆頭に「矢部屋敷」、「松井屋敷」、「大楊屋敷」、「左近屋敷」など、今川氏とその家臣に関連する屋敷地があったと推定され、遺跡の北西には今川義元が台頭の契機となる花倉の乱の舞台になった花倉城が存在しています。寺家前遺跡では今川時代の遺構は明確ではありませんが、寺家前遺跡を含む西駿河地域が今川氏にとって重要な土地であったことを示していると言えるでしょう。



歴史地図

文化財めぐり

駿河今川の里 葉梨郷

藤枝市郷土博物館 ☎054 (645) 1100
志太郡衙資料館 ☎054 (646) 6525
史跡田中城下屋敷 ☎054 (644) 3345



花倉城跡

葉梨地域は、市内北東部を占める山間地域で、上大沢に源を発して志太平洋へと流れ込む葉梨川を中心に東西両側には海拔160～300mの山塊が広がっています。そして、この葉梨川流域に広がる台間地には、今川範国を初代とする駿河今川氏ゆかりの神社、寺院などを中心に多数の文化財が点在しています。

①白山神社 加賀国から勧誘されたと伝えられる神社です。

②桜宮神社 古くは蔵王権現と呼ばれ、明治8年に改称。

③貞船神社 享禄3年(1530年)社殿再建と伝えられ、明治12年に横見舟山の浅間神社、衣原の楠神社、中田の諏訪神社の3社が合祀され現在に至っています。

④花倉八幡神社 今川範氏が花倉の地に居館を構えた際に守神として西方の八幡を遷宮したと伝えられ、「弓はじめ」の祭礼が毎年2月に行なわれています。

⑤葉梨神社 古くは橘神社、牛頭天王社と呼ばれていました。

⑥西方八幡神社 天喜元年(1053年)源義家の奥州征伐に際して豊前国の宇佐八幡大神を勧請したと伝えられています。

⑦利勝院 山号を修福山と称す曹洞宗の寺院。

⑧桂雲寺址 明治初年に廃寺。

⑨竜門寺址 旧彦坂家付近にあったと伝えられています。

⑩長慶寺 今川泰範が嘉慶年間(元中年間 1387～1388年)に開基し、後に雪斎長老が中興した臨済宗妙心寺派の寺院で、泰範と雪斎長老の菩提寺となっています。市の史跡指定を受けた泰範の五輪塔と雪斎長老の無縫塔を拝観することができます。

⑪彌照寺 遍照光寺を前身とする曹洞宗の寺院。

⑫遍照光寺址 京都・泉涌寺の末寺で興言律宗の寺でした。今川氏親の二男であり花倉の乱の首謀者である恵探(良真)や家耳泉井など今川氏一族が住職となっていました。永禄13年、武田氏の駿河侵攻の際に寺は焼かれ、廃寺になったと伝えられます。

⑬補陀洛寺 山号を普門山と称す曹洞宗の寺院。

⑭彌福寺址 元亀2年(1571年)に開創された曹洞宗の寺院でしたが、戦後彌照寺に合併され廃寺となりました。



(左) 今川泰範の五輪塔
(右) 雪斎長老の無縫塔



()内は現在残っている今川氏の居館や家臣の屋敷の所在を想定させる小字名

⑮安養寺址 今川貞世の曾孫範将の菩提寺で、一時期長慶寺の塔頭となっていたが、現在は静岡市小坂に移されています。

⑯灌溪寺 山号を石龍山と称す曹洞宗の寺院で、二階堂氏や依田氏にゆかりのある寺院です。

⑰龍脚院 曹洞宗の寺院で、室町時代末期の詩文集「梅花無尽蔵」の著者万室集九が立ち寄りました。

⑱安楽寺 神亀5年(728年)行基によって創建されたと伝えられる天台宗の寺院で、県指定の有形文化財である駒口が所蔵されています。

⑲大沢寺址 今川氏「大沢寺殿」の菩提寺で、一時期長慶寺の塔頭となっていたが、戦後廃寺となりました。

⑳常楽院 明応9年(1500年)に開創されたと伝えられ、今川氏の祈願所として手厚い保護を受けた曹洞宗の寺院です。市指定の有形文化財である木喰上人作毘沙門天像が所蔵されています。

㉑花倉城跡(市指定史跡) 今川氏が駿遠両国の略制の拠点として花倉の地に居館を構えた際に築かれた詰の城です。花倉の乱の舞台にもなりました。

㉒今川氏館跡 14世紀の中頃今川範氏によって遍照光寺の門前から天神前と呼ばれるあたりに築かれたと推定され、以来今川氏の駿遠両国支配の拠点のひとつとして重要な役割を果たしてきましたが、武田の駿河侵攻によって焼失したと伝えられます。

㉓松井屋敷跡 今川氏の家臣松井宗次・助宗父子の屋敷が所在していたと考えられ、周辺に「上松井」や「下松井」などの小字名が現在に残っています。

㉔大楊屋敷跡 大楊氏の屋敷推定地。「大柳(ホーヤギ)」の小字名が現在に残っています。

㉕左近屋敷跡 今川氏旗下の松井左近の屋敷推定地。

㉖矢部屋敷跡 今川範国が範氏の代に今川氏に服属した国人矢部氏の屋敷推定地で、「矢部屋敷」の小字名が現在に残っています。

㉗ウスイ坂 中ノ倉から朝比奈方面に通じる古来からの峠道。

㉘鹿嶋渡 花倉から瀬戸川の谷筋に通じる古来からの峠道。

㉙衣原古墳群(市指定史跡) ならかな丘陵の先端部に築造された古墳時代後期(6世紀)の群集墳で、20基以上の存在が確認されています。中でも直径30mにもおよぶ大規模な円墳の築山古墳は、古墳群の中核的な存在となっています。

㉚トキワガキ(市指定天然記念物) カキノキ科に属する灌木で、普通のカキが落葉するのに対してこのカキは常緑であることからこの名が付けられました。また、このカキは雌株で径1～2cmの実を結びます。西国や九州の暖かい地方で自生し、静岡県付近が北限域と考えられています。

㉛白藤の滝 高さ約160m、幅約3mの規模で清流が流れ落ちる滝で、江戸時代に鑑賞された地誌「駿河記」には、「瀝の上を天狗遊と云て平なり。眺望伊勢の海山に及びり。」といった記述が見られます。



木喰上人作毘沙門天像



白藤の滝

第5版/平成17年3月

仮宿堤ノ坪遺跡

藤枝岡部インターチェンジと国道 1 号を結ぶ道路付近

朝日山城の山麓で、仮宿堤ノ坪遺跡の発掘調査を行いました。朝日山城は不明な点が多い城ですが、平安時代後期にこの地に根付いた岡部氏との関わりが推定されています。

遺跡は、平安時代末から鎌倉時代の、掘立柱建物跡、柱穴跡などで、山裾のわずかな平坦部を利用して、約 30m 四方の範囲に小規模な屋敷跡があったとみられます。

土器類のほか、白磁片、木製農耕具、寺家前遺跡と同様、「花押」のような墨書がある土器が出土しており、この地域の領主を示すものと考えられます。古文書などではわからない、地域の歴史の手がかりとなる貴重な歴史資料です。なお、山茶碗の中に、特殊な器種がみつかっています。仏具として用いる、托と碗が一体化したようにも見える形状です。ここに住んだ幻の領主が、日々、仏具として用いていたものかもしれません。



仮宿堤ノ坪遺跡 調査地全景



仮宿堤ノ坪遺跡 水田跡



仮宿堤ノ坪遺跡 建物群